

東京理科大学ワンダーフォーゲル部OB 会50周年記念イベント

山岳リレー班第三陣 烏帽子～槍 縦走記録

日時: 2009年8月27日～8月30日

場所: 高瀬ダム～烏帽子小屋C1～烏帽子岳ピストン～野口五郎岳～鷲羽岳～三俣蓮華岳～双六小屋C2～西鎌尾根～槍ヶ岳ピストン～槍ヶ岳山荘C3～上高地

メンバー: 藤田幸紀 (s50)

山岳リレー班の第二陣は種池山荘から烏帽子小屋まで縦走した。今回、第三陣として上記裏銀座コースを縦走した。小屋泊まりに抵抗を感じながらも、身体的安楽さの誘惑に抗し難く、全小屋泊まりとした。一人旅でちょっとさびしかったです。(カメラを携行しなかったため、写真はありません。)

<8月27日> 高瀬ダム(7:50)～烏帽子小屋C1(11:35)～烏帽子岳ピストン(1Hr)、曇り

ぶな立尾根は、標高差 1300m、急登の連続ではあるが、空身のため早目についた。12、11、10・・・と順次番号が表示されている。ずいぶん経ってから、標高差の表示と気づいた。前夜の窮屈な夜行バスで一睡もできず、思考能力が減退していたためにちがいない。

烏帽子への美しい稜線に出ると、入山した爽快感に浸る。なにやら、先ほどまで第二班メンバーがそこにいたように感じた。

<8月28日> 烏帽子小屋(5:20)～野口五郎岳～鷲羽岳～三俣蓮華岳～双六小屋C2(13:40)、曇り、時々晴れ

天気が下り坂のため、ピークはガスの中。しかし、稜線上、少し下ると視界は良い。空身のため、行動は軽快。視界も利かず、なるべく先に行きたいため水晶岳ピストンは省略。これで3回目の省略となった。意思の弱さを痛感。

水晶小屋を過ぎると、おだやかな地形に変わり、多くのお花畑をのんびり歩く。三俣山荘まで来ると一気に登山者が増える(ただし、私と同じおじさん、おばさんのみ)。なぜか元気が出てきたので、当初の計画を変更し、双六小屋まで行く。夜に入り雨が降り始めた。

<8月29日> 双六小屋(8:50)～西鎌尾根～槍ヶ岳山荘C3(12:40)～槍ヶ岳ピストン(1Hr)、雨のち曇り、時々晴れ

3時ごろ寒冷前線が通過。雨が激しくタン屋根を打つ。屋根裏といえども、テントに比べると天国のようなものだ。朝、ほとんどの宿泊者が下山する中、待機。風雨が弱くなったので、少し緊張して、一人小屋を出発。天候はだんだん良くなり、途中、硫黄尾根の景観も見え始めた。千丈乗越まで着き、やれやれと思っていたら再び雨。

苦しい記憶しかない最後の登り400mを、気を入れてのぼり始める。2本目、あっさりと槍ヶ岳山荘の横に出た。やはり空身は楽だ。

山荘まで来ると登山者がいっぱい。そのうち槍の穂先も見え始めたので、カラフルな登山者の列に混じり、登頂。午後からは雲も切れ、美しい景色を見ることができた。

<8月30日> 槍ヶ岳山荘(5:30)～上高地(11:00)、曇り

ガスの中、上高地へ向け、槍沢を下山。

以上、